

日医ニュース

2025. 3. 20 No. 1523

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/



トピックス

- キッザニア東京に「診療所」パビリオンを期間限定で出展… 3面
- 日本医師会「大規模イベント医療・救護研修会」… 4面
- 映画「フロントライン」特別試写会のご案内… 7面

第13回「日本医師会 赤ひげ大賞」表彰式・レセプション

日本医師会

赤ひげ大賞

地域医療に尽力する5名の大賞受賞者と14名の功労賞受賞者を顕彰

本賞は、「現代の赤ひげ」とも言うべき、地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰することを目的に、平成24年に創設したものである。

第11回より、赤ひげ大賞の選考に地域医療を志す医学生視点も反映させることとし、今回は選考委員として和歌山県立医科大学と琉球大学の医学生が参加した。

表彰式は、現代の赤ひげといえる医師の存在である。平時においてはあまり意識されないが、日本全国どこにおいても、昼夜を分かたず対応して下さっている医師がいることで、地域が支えられていく。

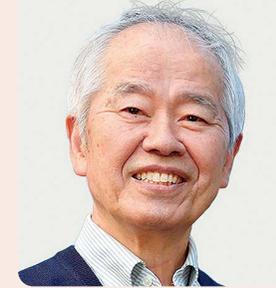
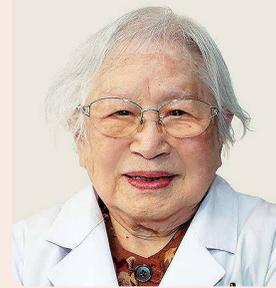
その上で、19名の受賞者について、「いずれも地道に、そして献身的に医療活動に従事してこられ、先生の顔を見るだけで元気が出るような、医療を超えた患者さんとの信頼関係の中で地域を守ってこられたことに敬意を表する」と述べ、日本医師会としても引き続き、これらの活動を支援することで、地域医療の充実に寄与していくこととした。



第13回「日本医師会 赤ひげ大賞」(日本医師会・産経新聞社主催、都道府県医師会協力、太陽生命保険特別協賛)の表彰式を2月21日、都内で開催し、地域住民の健康の保持増進とまちづくりに尽力してきた5名の赤ひげ大賞受賞者と14名の赤ひげ功労賞受賞者の功績をたたえた。また、引き続き行われたレセプションには、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご臨席され、受賞者らとの懇談が行われた。

その後、選考委員でもある黒瀬巖常任理事が、選考の経過として、昨年5月1日付で日本医師会より都道府県医師会宛てに推薦依頼文書を発行し、「候補者推薦書」による事前審査を選考委員で行い、その結果を基に11月7日の選考会で受賞者を決定、本年1月8日に公表したことを報告。「受賞された先生方は長年にわたり、地域住民の健康確保のために親身に取り組んでこられた方ばかりであり、選考には困難を伴ったが、最終的には本賞にふさわしい方々を選考できたと考えている」と述べ、本賞が各地域の医師の励みとなり、地域医療の更なる充実や後進の育成へとつながることを期待するとした。

「赤ひげ大賞」受賞者(5名) 順位は北から 受賞者の年齢は2025年2月21日現在

<p>なかむら しんいち 中村 伸一 医師</p>  <p>62歳 福井県 おい町国民健康保険 名田庄診療所 所長</p>	<p>はやかわ とみひろ 早川 富博 医師</p>  <p>73歳 愛知県 愛知県厚生農業協同組合連合会 足助病院 名誉院長</p>	<p>なかむら まさひろ 中村 正廣 医師</p>  <p>76歳 大阪府 中村クリニック 理事長</p>	<p>たかがき ゆうさく 高垣 有作 医師</p>  <p>66歳 和歌山県 国保すさみ病院 顧問</p>	<p>まべ まさこ 間部 正子 医師</p>  <p>97歳 熊本県 間部病院 副院長</p>
---	--	--	---	---

「赤ひげ功労賞」受賞者(14名) 順位は北から・敬称略

<p>かとう てるお 加藤 輝夫 (75歳) (北海道・市立函館南茅部病院 院長)</p>	<p>おがさわらますみ 小笠原真澄 (68歳) (秋田県・大湯リハビリ温泉病院 院長)</p>	<p>たかたま まさみつ 高玉 真光 (94歳) (群馬県・老年病研究所附属病院 理事長)</p>	<p>こくれ けんぞう 小暮 堅三 (92歳) (東京都・小暮医院 名誉院長)</p>	<p>どい なおき 土肥 直樹 (61歳) (神奈川県・相模原市国民健康保険内郷診療所 所長)</p>
<p>なかむら くにお 中村 國雄 (83歳) (富山県・中村記念病院 理事長・院長)</p>	<p>きのひら あきよ 紀平 章代 (83歳) (静岡県・紀平クリニック 副院長)</p>	<p>わたなべ こうすけ 渡辺 康介 (76歳) (京都府・渡辺西賀茂診療所 理事長)</p>	<p>たけち みきお 武地 幹夫 (65歳) (鳥取県・江府町国民健康保険江尾診療所 所長)</p>	<p>どて けいご 土手 慶五 (67歳) (広島県・安佐医師会病院 病院長)</p>
<p>よしだ おさむ 吉田 修 (66歳) (徳島県・さくら診療所 勤務医)</p>	<p>いまい ようこ 今井 洋子 (89歳) (愛媛県・奥島病院 非常勤医)</p>	<p>あそろ ひろし 麻生 宏 (80歳) (大分県・麻生小児科医院 理事長)</p>	<p>とくだめ かずひろ 徳留 一博 (81歳) (鹿児島県・日当山温泉東洋医学クリニック 理事長・院長)</p>	

(1面より)

来賓祝辞では、衆議院
予算委員会から駆け付け
た石破茂内閣総理大臣
が、「国民皆保険制度が
できた当初の医療は感染
症が中心であったが、が
んや生活習慣病など疾病
へとその種類が変わり、
「治す医療」から「治し支
える医療」へと変わって
いる」として、地域に根
付いて、長年にわたり住
民の生活を支えてきた受
賞者達に敬意を表した。

更に、「赤ひげ先生方
は人々の安心のための頼
みの綱であり、よりどこ
ろ。先生がいてくれて良
かったと、どれだけ大勢
の人が思ったことか」と
述べ、その存在は何者
にも代えがたいとした。

閉会のあいさつでは、
近藤産経新聞社社長が、
「病を治すことはもちろ
ん、健康に暮らし、その
人らしく生きていける時
間をいかに長くできるか
は、人生100年時代の
医療の命題である」と述
べ、その最前線で活躍す
る受賞者に敬意を表し
た。

レセプション

引き続き行われたレセ
プションは、約160名
の参列者の万雷の拍手の
中、松本会長と近藤産経
新聞社社長の先導によ
り、秋篠宮皇嗣妃両殿
下をお迎えして開式。
来賓祝辞では、福岡資



あいさつする石破総理

慶厚生労働大臣が、「2
040年頃を見据える
と、医療・介護の複合ニ
ーズを抱える高齢者の増
大や現役世代の減少、在
宅医療の需要や高齢者の
救急搬送の増加が見込ま
れている」と述べ、受賞
者を始めとする医療関係
者達の協力の下、地域ご
との取り組みの推進に努
めていくとした。

選考委員でもある羽毛
田信吾恩賜財団母子愛育
会会長による乾杯のあい
さつの後、秋篠宮皇嗣同
妃両殿下は受賞者、選考
委員、医学生等のテーブ
ルを回り、受賞者達を労
い、その話に耳を傾



受賞者と懇談される秋篠宮皇嗣妃両殿下

の拍手が鳴りわたる中、
再び松本会長の先導に
より、ご退場された。
懇談を挟み、本事業に
特別協賛している太陽生
命保険の副島直樹代表取
締役社長のあいさつと
釜淵副会長による主催
者あいさつが行われた。
釜淵副会長は、「地域に
しっかり根を下ろし、医
療・介護・福祉そしてま
ちづくりの積極的に関与
組んでいる姿を拝見し
て、改めて感銘を受けて
いる」と称賛。日本医師
会としても、これらの活
動を守るために力を尽く
していくとした。



医学生らと記念写真

その後、「医学生から
赤ひげ先生への質問」コ
ーナーが行われ、4名の
大賞受賞者と、選考委員
として参加した和歌山県
立医科大学の医学生4
名、琉球大学の医学生2
名が登壇。地域医療を志
す医学生からのさまざま
な質問に、各受賞者は自
身の心構えや行政との連
携の大切さなどを語っ
た。

大阪府の中村正廣医師
は、医師であった父親の
志を継いでその病院跡地
にクリニックを開業し、
終のすみかとなる有料老
人ホームも併設。多職種
連携により訪問診療や在
宅看取りを行ってきたこ
とを述べ、地域医療連携
の専任コーディネーター
を設け、入退院の支援や
適切なケアサイクルが回
るような体制づくりにも
努めてきたとする一方、商
店街の空き店舗を借りて
高齢者の居場所づくりに
も取り組んできたとし
た。

和歌山県の高垣有作医
師は、2055年の日本
の高齢化率予測を先取り
しているすさみ町におい
て、限られた医療資源を
永続的なセーフティネ
ットとするべく尽力する
中で得られた知見とし
て、(1)5000人程
度に分割した地域包括ケ
アを提示すると、きめ細
やかで効果が出やすい、
(2)地域のコミュニテ
ィを大切にすると、(3)
生涯働ける場を残すこ
とを紹介。「都会の90
歳とわが町の90歳は同じ
ではないと思う」と胸を
張った。

なお、大賞受賞者の功
績や当日の様態などをま
とめた小冊子『日本医師
会 赤ひげ大賞 かかり
つけ医たちの奮闘』は、
『日医雑誌』5月号に同
梱予定である。



祝意を伝える釜淵副会長

大賞受賞者が 喜びを語る

福井県の中村伸一医師
は、卒業3年目で派遣さ
れた際は、「総合診療の
千本ノックを受けている
ようだった」と回顧。3
年間も入浴できないとい
った高齢患者を通して在
宅ケアの重要性に気付
き、自治体や社会福祉協
会と連携してデイサービ
スを実施するなど、地域包
括ケアを築いてきたこと
を説明。「田舎
がどう生き残るかを考え
た時、医療だけではだめ
で、福祉、介護、生活支
援へと手を広げ、どん
どん医療から遠ざかって
くよだった」としつつ、
地域の住民が支えてくれ
るおかげで病院が存続で
きているとして、今後も
開かれた病院として地域
の人達と一緒に仕事をし
ていきたいと意気込みを
示した。

お知らせ

第13回「日本医師会 赤ひげ大賞」受賞者の日頃の活動と表彰式の模様を特集した番組を下記の要領により、放映することになりました。ぜひご覧下さい。

番組名：BSフジ「密着ノかりつけ医たちの奮闘～第13回赤ひげ大賞受賞者～」

放送日時：3月30日(日)午後5時～(約1時間)

「日本医師会患者ハラスメント・ネット上の悪質な書き込み相談窓口 (日医ペイハラ・ネット相談窓口)」が運用開始!!

日本医師会はこのほど、「日本医師会患者ハラスメント・ネット上の悪質な書き込み相談窓口 (日医ペイハラ・ネット相談窓口)」の運用を開始しました。

「日医ペイハラ・ネット相談窓口」は、昨今増加しているインターネット上の悪質な書き込みを含む患者ハラスメント全般に関する会員の先生方などからのご相談に対応するために開設したものです。ぜひ、ご活用願います。

- 利用対象者 日本医師会会員及び会員が開発・管理している医療機関または介護サービス施設・事業所の従事者
- 相談受付方法 WEBフォームまたは電話 (電話受付時間：平日の午前9時～午後6時)
- 担当課 日本医師会情報システム課、医事法・医療安全課

※なお、WEBフォームや電話番号は日本医師会ホームページ内のメンバーズルームに掲載しているため、日本医師会会員用アカウント(ユーザー名、パスワード)が必要となります。

https://www.med.or.jp/doctor/sonota/sonota_etc/011988.html

キッズニア東京に「診療所」パビリオンを 今年度も期間限定で出展



視察を行う三原大臣

日本医師会は昨年度に引き続き、キッズニア東京に「診療所」パビリオンを期間限定で出展（2月21日から3月13日まで3週間）することに、初日となる2月21日には記者らを迎えた取材会も行った。

キッズニアは、子ども達の職業・社会体験施設であり、本格的な設備や道具を使って、大人のようにさまざまな仕事やサービスを体験することで、楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができるようになっている。

今回は、子ども達にとって身近な存在である「小児科医」を取り上げ、乳児健診と予防接種を疑似体験することで、小児科医は病気の治療だけでなく、予防や子どもの成長を見守る役割も担っていることを学んでもらう。また、学校健診や訪問診療など、診療所外でも小児科医が幅広く活躍しており、その活動を支えているのが日本医師会であることを知ってもらえ、うきうきとなればと考へ、出展したものである。

パビリオンでは、赤ちゃんの医療人形を用いて大泉門や心音・呼吸音、股関節の動きを確認する「乳児健診」と、問診を経て、注射器を実際に使用した「予防接種」の二つの体験ができ、体験者には日本医師会が発行して

いる「医師資格証」に似せた、自身の名前と写真入りのカードを成果物として持ち帰ってもらった。また、昨年度に引き続き、キッズニアの来場者に予防接種の意義を知ってもらうためのクイズラリーも実施し、多くの子ども達も参加した。

取材会には、松本吉郎会長、釜淵敏副会長、黒瀬常任理事が出席。実際に小児科医の仕事体験した子ども達からは「注射を刺した腕のモデルが自分の肌のように緊張して、注射をする時に緊張した」「体験することで、お医者さんがいつもやってくれていることを実感することができた」「注射が2種類（皮下注射と筋肉注射）あることに驚いた。お医者さんも（注射を打つ時の）注意点など）考えながらやってくれているんだなと思った」「聴診器を当てる部分が決まっていることを知らなかったから驚いた」などの感想が述べられた。

記者からの質問に、松本会長は、「今回の体験を通じて、医師を始めとする医療関係者がいかに社会に貢献しているかを理解してもらい、子ども達の未来のために少しでも役立つことができればありがたい」と述べるとともに、「子ども達は、日々の勉強だけでなく、社会的に貢献できるような職業につきたいと大人が想像する以上に考えていると思う。そういった意味においても、いろいろな職業体験ができるキッズニアは意義のある施設であり、日

本医師会としても引き続き出展を検討していきたい」と今後の展望にも触れた。

また、小児科医としての立場で今回の体験の受け止めを問われた釜淵副会長は、「普段、予防接種を受ける時は、痛くて嫌だなと思っている子ども達も多いと思うが、体験を通じて、注射を刺す時の角度や深さなど、注意しなければならぬ点を実感しながら、診療を受ける側と診療を行う側、両方の立場を体験できるという意味で、非常に良い企画だと感じた」と視察した感想を述べた。

三原大臣が日本医師会パビリオンを視察

2月25日には日本医師会からの求めに応じて、三原じゅん子内閣府特命大臣（こども政策担当）がキッズニアを訪れ、日本医師会のパビリオンの視察を行った。

当日、三原大臣は松本会長から出展内容について説明を聞きながら、実際にパビリオンを体験している4名の子どもの様子を視察。視察後に囲み取材を受けた三原大臣はキッズニアについて、子どもの時からさまざまな職業体験ができることは大変意義があるとした上で、小児科医の仕事体験した子ども達に将来医師になることに期待感を示した。

日本医師会「大規模イベント医療・救護研修会」

大規模イベント開催に向けた

事前の関わり方等を共有



日本医師会「大規模イベント医療・救護研修会」が2月24日、日本医師会館とWEBによるハイブリッド形式で開催された。

本研修会は本年4月から大阪・関西万博が、また、11月には東京デフリンピック、そして来年には愛知県でアジア競技大会など、多くの大規模イベントが開催予定であることを踏まえ、各地域の医師会として、事前の準備段階からどのように関わっていくべきかを共有することを目的として、山口芳裕救急災害医療対策委員会委員長／杏林大

身の前線に「依頼から1週間という短い準備期間の中で、リスクを収集し、評価・分析していか現場に活用してもらうか」「日常的な医療提供体制をどのように維持していくか」が大きな課題になったと振り返り、「この経験を今後に生かしていきたい」と述べた。

「2025年大阪・関西万博における医療救護対策」では、溝端康光2025年日本国際博覧会協会医療救護協議会議長／大阪公立大学大学院医学研究科救急医学教授が、会場へのアクセスが限られるといった課題がある中で、万博開催中の多発的発生した場

「大規模イベントと感染症」については、井上 圭一 救急救急科教授がCBRNテロへの対応として、汚染物質に可能な限り触れないようにする脱衣の仕方、10秒拭き取った後に10秒すすぐといった除染の仕方「10:10アプローチ」を、加藤 杏林大講師が、銃創や爆傷による出血は死に至る確率が高いとして、ターニ

お知らせ

今回開催されました日本医師会「大規模イベント医療・救護研修会」のテキストとしても使用された『改訂第2版大規模イベント医療・救護ガイドブック』は、へるす出版から好評発売中〔2,200円(税込)〕となっておりますので、ぜひ、ご活用下さい。

平和を学べるミュージアム

今年是被爆から80年となり、被爆者が極端に減少する中、昨年は核兵器廃絶を訴える「日本原水爆被害者団体協議会」がノーベル平和賞を受賞した。ちなみに、医師会が深く関わる「核戦争防止国際医師会議」(IPPNW)も、1985年に同賞を受賞している。

共に被爆地ヒロシマにゆかりがあるが、その広島には多くの美術館や博物館があり、平和を学べ



し抑止力を正当化している国の立場が揺るぎかねないとの懸念があるにもかかわらず、原子爆弾を投下したアメリカだけでなく、核保有国のイギリスやフランスの首脳までもが同館を訪問し、被爆の実相を体験した。

一方、呉市の大和ミュージアムでは、多くの犠牲を払った戦艦大和の10分の1の模型や零式艦上戦闘機など、戦争兵器の展示によって戦争の悲惨さを訴えている。

また、規模は小さいが、広島県医師会館には被爆直後のカルテなど、医療関係の被爆資料を展示する被爆伝承コーナーと、IPPNWを紹介するコーナーがある。前者の展示物は、被爆者の高齢化や医療機関の継承・廃院により、貴重な被爆資料が散逸してしまうことを危惧し、寄贈頂いたものである。

それぞれのミュージアムでぜひ平和を学び、考えて頂きたい。

(グリーン)

「大規模イベントと外 国対応」については、加藤杏林大講師が大規模イベント開催の際には、開催地の感染状況を把握し、医療体制の確保が難しい場合はイベントの中止も考えるべきとの考えを示した。

質疑の後、総括を行った茂松茂人副会長は、大規模イベントの開催に当たって事前の段階からの積極的な関わりを参加者に呼び掛けることも、当日に配布した『改訂第2版大規模イベント医療・救護ガイドブック』の活用を求め、研修会は終了となった。

医師会会員情報システム(MAMIS)へのログインをお願いします!!

医師会会員情報システム(MAMIS)にログインがお済みでない先生方に対して、3月中旬ごろから、右掲のはがきを再送しています。

MAMISは、医師会員及び研修などに参加する非会員の方が利用できるWEBシステムです。WEBで住所変更などができる他、4月からは研修会(講習会)機能を順次リリースする予定ですので、ぜひ、ログインをお願いします。



MAMISは、医師会員及び研修などに参加する非会員の方が利用できるWebシステムです。

全ての医師が対象です

2025年4月から、研修会(講習会)機能を順次リリース!

Webで手続きができます

医師会会員情報システム MAMIS 初回ログイン情報のご案内およびログインのお願い

日本医師会 総務課 03-3942-6481 / 03-3942-6477・人事課 03-3942-7027・国際課 03-3942-6489・医療保険課 03-3942-6490・介護保険課 03-3942-6491・広報課 03-3942-6483・情報システム課 03-3942-6133
 (会員情報室) 03-3942-6482 / 03-3942-7050 / 地域医療課 03-3942-6137・医療技術課 03-3942-6478・日本看護士推進センター 03-3942-7276・医事法・医療安全課 03-3942-6484 / 03-3942-6506・医務対策課 03-3942-6136

第8回「生命を見つめるフォト&エッセー」表彰式



フォト並びにエッセー部門の入賞作品を表彰



第8回「生命を見つめるフォト&エッセー」表彰式

主催：日本医師会 読売新聞社 後援：厚生労働省 文部科学省
協賛：東京海上日動火災保険株式会社 東京海上日動あんしん生命保険株式会社

第8回「生命を見つめるフォト&エッセー」(日本医師会・読売新聞社主催、厚生労働省・文部科学省後援、東京海上日動火災保険株式会社・東京海上日動あんしん生命保険株式会社協賛)の表彰式が2月15日、都内で開催された。

本事業は長年にわたり実施してきた『生命を見つめる』フォトコンテスト」と「心に残る医

療体験記」コンクール」を統合、平成29年度より新たに開始したもので、8回目を迎える今回も多くの作品が寄せられた。

冒頭、主催者を代表してあいさつした松本吉郎会長は、多数の応募への謝意を示し、「近年ではフォト、エッセー両部門において海外からの応募

もあつた。主権者として本コンテストの広がりや、ご家族や医療関係者との心温まる交流を描いた原稿など、すばらしい作品ばかりであり、深い感銘を受けた」と述べ、受賞者への祝意を示した。

引き続き表彰に入り、まず「フォト部門では一般の部」の厚生労働大臣賞、日本医師会賞、読売新聞社賞各1名、審査員特別賞3名、入選2名のうち1名の受賞者(1名欠席)、「小中高生の部」の文部科学大臣賞1名、優秀賞4名にそれぞれ賞状・副賞が授与された。

エッセー部門では「一般の部」の厚生労働大臣賞、日本医師会賞、読売新聞社賞各1名、審査員特別賞3名、入選2名のうち1名の受賞者(2名欠席)、続いて、「小中高生の部」(小学生高学年の部)「小学生低学年の部」の文部科学大臣賞3名のうち2名の受賞者(小学生高学年の部)1名欠席)と、優秀賞9名の受賞者に、それぞれ賞状・副賞が授与された。

その後の審査講評では、フォト部門審査員を代表して熊切大輔日本写真家協会会長が、今回の入賞作品について、「昨年度に引き続き審査に携わったが、そのクオリティは年々上がってきている。被写体・ジャンルも幅広く、世の中に活気が戻り、撮影機会が増えてきたことを作品から実感できる」とした。

その一方で、観光地やいわゆる撮影スポットではオーバーツーリズム等の問題も生じていることに言及。「そのような場で撮影をする楽しみはもちろんあるが、フォトジェニックな瞬間というものへの身の回りにも溢れ出ており、世の中に活気が出てきたからこそ身近なものでも大事にして欲しい」と述べるとともに、「写真は何気ない瞬間を絶景に変えることができ」と強調。「生命の大切さ、尊厳、喜びをいかに写真に投影できるかというところもぜひ今後は楽しんでいってほしい」とした。

エッセー部門審査員を代表して養老孟司東京大学名誉教授は、本コンテストについて、「感動的な作品ばかりでいつも読者の心を揺るがす。表彰式では皆さんの顔を見られることで『あの作品を書いた方はこの方か』と楽しませてもらうという受賞者を祝福。本コンテストを通じて、今後ますます素晴らしい作品が数多く世の中に出てくることを期待を寄せた。

「写真は何気ない瞬間を絶景に変えることができ」と強調。「生命の大切さ、尊厳、喜びをいかに写真に投影できるかというところもぜひ今後は楽しんでいってほしい」とした。

エッセー部門審査員を代表して養老孟司東京大学名誉教授は、本コンテストについて、「感動的な作品ばかりでいつも読者の心を揺るがす。表彰式では皆さんの顔を見られることで『あの作品を書いた方はこの方か』と楽しませてもらうという受賞者を祝福。本コンテストを通じて、今後ますます素晴らしい作品が数多く世の中に出てくることを期待を寄せた。

「写真は何気ない瞬間を絶景に変えることができ」と強調。「生命の大切さ、尊厳、喜びをいかに写真に投影できるかというところもぜひ今後は楽しんでいってほしい」とした。

エッセー部門審査員を代表して養老孟司東京大学名誉教授は、本コンテストについて、「感動的な作品ばかりでいつも読者の心を揺るがす。表彰式では皆さんの顔を見られることで『あの作品を書いた方はこの方か』と楽しませてもらうという受賞者を祝福。本コンテストを通じて、今後ますます素晴らしい作品が数多く世の中に出てくることを期待を寄せた。

エッセー部門審査員を代表して養老孟司東京大学名誉教授は、本コンテストについて、「感動的な作品ばかりでいつも読者の心を揺るがす。表彰式では皆さんの顔を見られることで『あの作品を書いた方はこの方か』と楽しませてもらうという受賞者を祝福。本コンテストを通じて、今後ますます素晴らしい作品が数多く世の中に出てくることを期待を寄せた。

エッセー部門審査員を代表して養老孟司東京大学名誉教授は、本コンテストについて、「感動的な作品ばかりでいつも読者の心を揺るがす。表彰式では皆さんの顔を見られることで『あの作品を書いた方はこの方か』と楽しませてもらうという受賞者を祝福。本コンテストを通じて、今後ますます素晴らしい作品が数多く世の中に出てくることを期待を寄せた。

エッセー部門審査員を代表して養老孟司東京大学名誉教授は、本コンテストについて、「感動的な作品ばかりでいつも読者の心を揺るがす。表彰式では皆さんの顔を見られることで『あの作品を書いた方はこの方か』と楽しませてもらうという受賞者を祝福。本コンテストを通じて、今後ますます素晴らしい作品が数多く世の中に出てくることを期待を寄せた。

2027年の開催に向け進捗状況などを説明

第32回日本医学会総会 第2回記者発表会



記者発表会の冒頭、松本吉郎日本医師会会長のあいさつを代読した角田徹日本医師会副会長は、本総会のメインテーマにも掲げられている「医学のレジリエンス」について言及。その意味は、医療界が大きな転換期を迎えることを余儀なくされる

「専門分化が進んでいる医学・医療において、理念や課題を共有することが重要となるが、医学総会は領域・分野を横断的にディスカッションすることができる場であり、医学・医療の発展の跳躍台となり得るもの」として総会開催の

「専門分化が進んでいる医学・医療において、理念や課題を共有することが重要となるが、医学総会は領域・分野を横断的にディスカッションすることができる場であり、医学・医療の発展の跳躍台となり得るもの」として総会開催の

「専門分化が進んでいる医学・医療において、理念や課題を共有することが重要となるが、医学総会は領域・分野を横断的にディスカッションすることができる場であり、医学・医療の発展の跳躍台となり得るもの」として総会開催の

「専門分化が進んでいる医学・医療において、理念や課題を共有することが重要となるが、医学総会は領域・分野を横断的にディスカッションすることができる場であり、医学・医療の発展の跳躍台となり得るもの」として総会開催の



第32回日本医学会総会 2027
2027/4/23-25日(東京) 2027/4/22-25日(大阪) 2027/3/20-28日(福岡)

お知らせ

第8回「生命を見つめるフォト&エッセー」の全ての入賞作品は日本医師会ホームページに掲載している他、冊子としてまとめ、『日医雑誌』5月号に同梱して送付する予定です。ぜひ、ご一読ください。



日本医師会ホームページ

「すすめよう禁煙！川柳コンテスト」作品募集中！！

日本医師会では5月31日の世界禁煙デーに行うイベントの一環として、「禁煙」をテーマとした川柳を募集しています。ぜひ、ご応募願います。



主催：日本医師会、東京都医師会
 運営協力：朝日新聞社メディア事業本部
 募集締切：2025年4月13日（日）午後11時59分
 賞：各賞1点選出（* 応募時の学年とします）

【一般部門（高校生以上*）】

日本医師会長賞（賞状、賞金10万円）
 東京都医師会長賞（賞状、賞金10万円）
 審査員特別賞（賞状、賞金5万円）
 朝日新聞社賞（賞状、賞金5万円）

【ジュニア部門（中学生以下*）】

日本医師会長賞（賞状、QUOカード5万円分）
 東京都医師会長賞（賞状、QUOカード5万円分）
 審査員特別賞（賞状、QUOカード3万円分）
 朝日新聞社賞（賞状、QUOカード3万円分）を予定

募集内容：禁煙の重要性やたばこの害などをテーマとした川柳
 応募方法：朝日新聞社ホームページ内に設けた応募フォームより投稿

※一人1回5作品まで（複数投稿可）

選考：日本医師会並びに東京都医師会担当役員、朝日新聞社メディア事業本部、尾藤川柳氏（十六代目川柳／川柳公論社主宰）

結果発表：世界禁煙デー（5月31日）に東京タワーで行うイベントにて公表

問い合わせ先：「すすめよう禁煙！川柳コンテスト」運営事務局

✉ jma-senryu2025@asahiculture.com

※注意書き等は応募フォームをご覧ください。



応募フォーム



年金委員会

経済状況の動向を踏まえ 制度運営の適正化に向けた答申まとまる

年金委員会はこのほど、松本吉郎会長からの諮問「日本医師会年金制度運営の適正を図るために、必要な事項について」に対する答申を取りまとめ、2月14日に委員長である茂松茂人副会長から松本会長に提出した（写真）。

答申の取りまとめに当たっては、各分野の専門家である生涯設計委員会の委員や運用コンサルティング会社などで構成されたワーキンググループを設置し、意見交換を実施。また、幹事信託銀行の作成した利源分析データを活用した検討なども行われた。

前回の答申から5年を経過し、5年前のマイナス金利の環境から現在のインフレの環境に変化したこと等を踏まえ、今回の答申の中では、以下4点（①予定利率（保険料に付する利息）②予定死亡率（生命表に基づく死亡率の予測）③予定運用利率（資産運用の期待収益率）④運用資産配分）について、具申されている。

なお、今後剰余金が増加してきた際には、今後の公益法人制度改革により変更される会計基準を踏まえて適正に処理することとし、詳細については関係各所と検討している。

書籍紹介



子どものせぼねのミカタ

渡辺航太 著
酒井紀典 著



本書は、以前から通じ合う考えを持つ著者の二人が子ども達の幸せを願って執筆したもので、書名の「ミカタ」には医療従事者には「診かた・見かた」子ども達には「味方」となるようにとの思いが込められている。

映画「フロントライン」特別試写会に 抽選で医学生450名をご招待

このたび、ワーナーブラザーズジャパン並びに木下グループのご厚意により、全国上映に先駆けて、映画「フロントライン」の特別試写会を医学生を対象として、4月25日に日本医師会館大講堂で開催することになりました。



本映画は小栗旬、松坂桃李、窪塚洋介、池松壮亮がメインキャストを務め、日本で初めて新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生した豪華客船で、乗客らの命を救うために懸命に取り組んだ医師や看護師の姿を描いた作品となっており、日本医師会も後援しています（詳細は公式ホームページを参照）。

医学部に通うご子息・ご息女がおられる場合にはぜひ、お知らせ頂ければ幸いです。

なお、申し込みには日本医師会のLINE公式アカウントを友だち登録する必要があります。

◆開催日：4月25日（金）午後6時30分から上映（受付は午後5時30分～）

◆開催場所：日本医師会館 1階大講堂（東京都文京区本駒込2-28-16）

◆応募対象者：医学生（抽選で450名をご招待）

◆応募締切：4月7日（月）午後11時59分まで

◆申込方法：

①QRコードを読み込んで日本医師会LINE公式アカウントを友だち登録（登録済みの方はトーク画面に飛びます）

②応募フォームより必要事項を記入

③応募完了！

※応募は一人1回に限らせて頂きます（複数回の応募は無効とさせていただきます）。

※当選者の発表は、LINEの通知をもって代えさせていただきます。

※1回の申し込みで最大2名様まで応募可能です。ただし、同行者も医学生に限らせて頂きます。

※当日、受付でLINEの当選通知とともに学生証のご提示をお願いします（LINEの当選通知を削除された方、学生証を忘れられた方はご入場できない場合もございますので、あらかじめご了承ください）。

※席は自由席（1階席並びに2階席）となっており、事前の予約はできません。車いすの方は申し込み時にその旨をお申し出願います。

◆問い合わせ先：日本医師会広報課 kouhou@po.med.or.jp



公式ホームページ



応募フォーム

また、「ガイドラインの現況」では、最近発行されたガイドラインの改訂ポイントが簡潔書きに要約され、一目で分かるように工夫されているなど、耳鼻咽喉科頭頸部領域の疾患全般の診療ガイドラインへの手引き「ガイドラインへのガイド」として、多くの実地医家に役立つ一冊と言える。定価 11000円（税込）

発行 総合医学社

【NOTE】では最新情報や素朴な疑問、医療発展の可能性なども紹介されるなど、便利な一冊となっている。

情報管理(6)IT(7)労働(8)医療行為(9)患者トラブル(10)事業承継・M&A(11)の10項目にも及び、全部で76問が掲載されている。

し、医療従事者にとって良好な職場環境を実現しながら適正な医療サービスを提供するために大変役立つ一冊と言える。定価 7370円(税込) 発行 青林書院

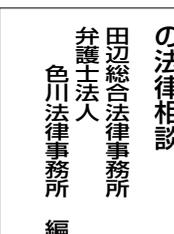
たい一冊となっている。定価 5830円(税込) 発行 南江堂

その内容は、小児脊椎疾患(脊柱側弯症、斜頸、脊椎分離症、椎間板ヘルニア、終板障害)についてイラストや画像と共に読みやすく解説されており、短時間で理解を深めることが可能となっている。小児脊椎疾患は成長過程に影響を及ぼすため、早期発見が重要となる。2016年から運動器検診が開始され、多くの子どもが整形外科や小児科を訪れる機会が増えたと考えられることから、保護者など一般の方にも親しみやすいQ&A形式で解説されている。

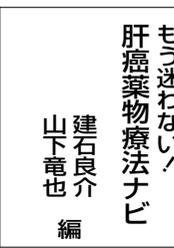
医療経営法務に関する経験豊富な持つ弁護士が、「病院・診療所の経営者に対して経営に必要な法的知識を提供する」という観点から構成を考え、内容を精査。開設・運営、日々のトラブル対応から閉院まで、裁判例・判例の動向や法改正等の最新情報に基づいて、現場の実務に直結した実践的な解説がなされている。

肝細胞がんの薬物療法については近年、新たな分子標的治療薬の承認が相次ぎ、複合免疫療法を

本書には、耳鼻咽喉科頭頸部疾患のエキスパートが、国内外の最新ガイドラインを基に、自らの経験を踏まえて、「どう」という疾患・病態から「専門医に紹介するタイミング」「専門医からのワンポイントアドバイス」などが、非専門家でも理解できるように平易に記載されているばかりでなく、診療エッセンスがまとめられている。



田辺総合法律事務所 弁護士法人 井護士 色川法律事務所 編



もう迷わない！肝臓薬物療法ナビ 建石良介 山下竜也 編



村上信五 編

勤務医のページ



大阪府医師会理事／
近畿大学医学部小児科学教室主任教授
杉本圭相

無知の知からの組織力強化

医師会メリット論

私は2022年より、大阪府医師会の理事という大役を拝命した。それと同時に、私の本格的な医師会活動が始まった。「これまで何をしていたのか」とお叱りを受けるかもしれないが、大筋では事実である。しかしながら、近畿大学医師会、大阪府医師会、そして日本医師会には以前から所属しており、各種通知や生涯教育制度の学習単位取得証も受け取ってきた。

また、医師会がどのような活動を行っているのか、

の強化において勤務医の果たす役割が極めて大きいことは明白である。とは言え、この課題にどのように取り組むべきか、私にとってはまさに手探りの状態からの出発であった。これまで先輩方が積み重ねてこられた努力に敬意を表しつつ、自らの視点でこの課題に向き合うこととなった。

大阪府医師会勤務医部会の常任委員会は月に2回開催され、大阪府下各ブロックの代表の先生方が参加し、活発な議論が交わされている。現在では、医師会が抱える諸問題や、その中で勤務医が果たすべき役割の全体像をある程度把握できるようになったが、当初は先輩方から教えを受ける日々であった。しかし、その過程で、これまで接点のなかった多くの先生方と「つながり」を持つことができた。この「つながり」は、私にとってかけがえのない財産であると感じている。

医師会の話題に必ずと言ってよいほど挙がるのが、「医師会に入会するメリット」である。人それぞれ重視する価値観が異なるように、医師会に求めるメリットもさまざまである。ただ、私自身が医師会活動を通じて得た最大のメリットを挙げるとすれば、それは「一人とのつながり」である。既に多くの医師との「つ

ながり」があり、仕事も順調で、業績も伸ばせているという方もいるだろう。私自身、かつてはそう考えていた。しかし、実際に医師会の中に身を置くと、その広さと奥深さを痛感することとなった。

現在、私は日本医師会の勤務医委員会にも所属し、諸先輩方の貴重な助言を受けながら、会長諮問に対する答申の審議を行っている。今後、特に重要となるのは、その答申をいかに現場へと反映させるかであろう。引き続き、医師会活動を通じて、医師の未来と医療の発展に寄与していきたい。

大阪府医師会勤務医部会 続いて、大阪府医師会が誇る勤務医部会について紹介する。大阪府医師会勤務医部会は、昭和48年に設立された歴史ある部会であり、2023年には設立50年という節目を迎えた。「温故知新、誇るべき50年」と題して開催された設立50周年記念式典には、松本吉郎日本医師会会長を始め、これまで多大な功績を上げ、尽力された先生方が出席された。設立の経緯を始め、部会へのさまざまな思いが込められたお話を拝聴し、深い感慨を覚えた。

この数年は新型コロナウイルスに翻弄されたが、それ以前から、大阪府内の医師達は多様な課題に直面しながらも対応を重ね、艱難辛苦の末に



研修医交流会

の研修会、研修医交流会、研修医ウェルカムパーティー、医学生と語る会（大阪府下の医学部学生が集う会）など若手医師が中心に関与するようになった。少しずつではあるが、彼らが主体となる会へと成長しつつある。この取り組みにより、次世代医師の育成が促進され、自ら関わることの重要性を学ぶ機会が生まれ、ひいては医師会の組織力強化につながると思われる。

勤務医部会は、若手医師の育成やキャリア形成の支援、医師の専門性向上、若手医師の参画促進やダイバーシティ推進に尽力してきた。これらの活動を通じて、医師が働きやすい環境の実現に貢献し、大阪府内の医療の質の向上と医師会の組織力強化に寄与している。特に近年は、若手医師の登用に注力している。

大阪府医師会では、若手医師自身が考え、行動する場として「MSO SKILL」を設置し、勤務医部会で

学生や研修医、若手医師に早期からアプローチしやすい立場にある。医師の基盤が築かれる場は大学であり、そこから医師会の組織力強化につながる働き掛けを行い、追い風を生み出していきたいと考える。

不確実な将来に、今こそ、
税優遇を活かして老後に備える—
国民年金基金
国民年金(老齢基礎年金)に上乗せする「公的な年金制度」です

ポイント 税制上の優遇措置

- 掛金は全額社会保険料控除の対象
- 受け取る年金にも公的年金等控除が適用
- 遺族一時金は全額非課税

一方で、働き方改革との整合性を図る必要がある。医師会活動におけるエフォート率が課題となっている。しかしながら、大学病院や医学部の視点からすれば、私自身、医

最後に、率先垂範して頂いている全国の大学医師会長、各病院の病院長におかれては、これまで以上に医師会活動へのご協力と、若手医師の参画に対する後方支援をお願いしたい。諸氏の厚い支援があつてこそ、全国医師会で広がりつつある若手医師の参画が持続し、更なる発展へとつながるためである。そして、それらの取り組みが実を結び、患者の健康と幸福を支える医療環境が整備されることで、より良い医療と社会の実現へとつながると確信する。

【ご加入条件】

- 20歳以上60歳未満の国民年金第1号被保険者の方
- 60歳以上65歳未満の国民年金に任意加入している方

※主に、個人立診療所の医師・従業員・ご家族などとなります。
※日本医師会年金(医師年金)に加入している方もご加入できます。

お問い合わせは下記どうぞ
全国国民年金基金
日本医師・従業員支部
☎0120-700650

HP上で24時間、資料のご請求・シミュレーション・加入申出のお手続きができます!

日本医師・従業員支部は、「日本医師会」を設立母体とする日本医師・従業員国民年金基金が移行した医師・医療従事者のための職能型支部です。

2024.4